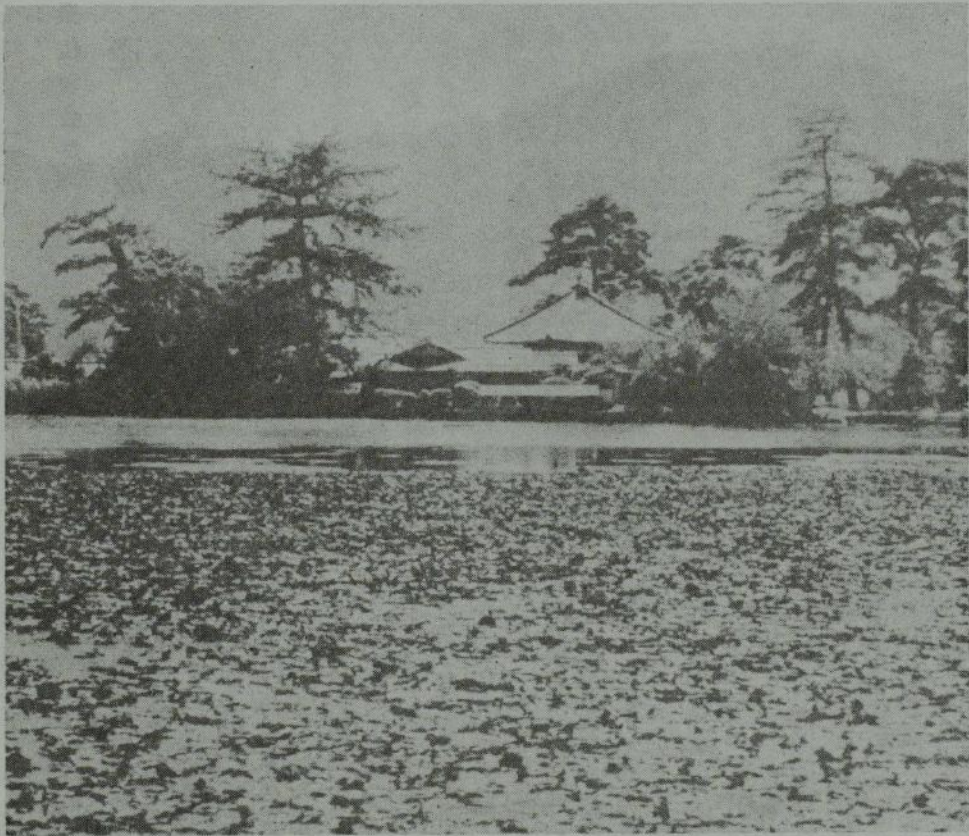


昭和36年1月16日第3種郵便物認可 昭和46年11月1月第172号(毎月1回1日発行1部20円)

NO. 172

# 全 仏

11 / 46



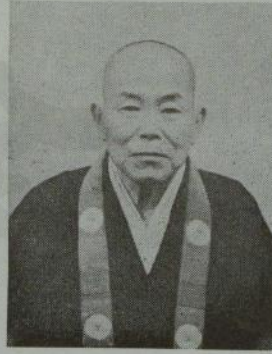
(大覚寺 大沢池)

財団法人 全日本仏教会

# 四国大会を顧みて

香川県仏教会長

逢坂 恵 勝



まず、本大会が全仏並に岡山、新潟を始め、全国都道府県並に真言宗、また仏教各宗派の尊象有志篤信の方々の御指導と御後援に依り何の滞りも無く閉幕したことを瑞喜すると共に感謝の意を表したい。

本大会が成功したか否かは、最初の希望、目的をどこに置くかにより各人各様の意見が生じて来る。

予定の東北、関東、近畿の三県が本年は引受け兼ね、亦総本山普通寺も辞退され、高野山大会以来十八年間毎年連続挙行出来たのに本年は開催がやぶまれたのが無慮執行された、これだけでも成功と言えないことは無い。殊に盛儀であったとすれば大成功ということも誇大ではないと思う。

しかしそれ程多大の努力と犠牲により開催した大会が如何程全一仏教に貢献したか、大会が一般大衆を如何程教化し、決議事項が如何程実践出来るかを考えるとき多少趣を異にし、淋しみを禁じ得ない。殊に全仏の内容組織を熟知せず、これまでの大会に出席したことの無い事務局青年僧、全日仏に縁の薄い市郡町仏の方々には大きな成果を期待していたかも知れないし、

共催たるにかかわらず全仏が募金事務その他総てを地元仏教会へ放りつけられた点は不満であったと思う、しかし屢く大会に出席して同様の不満に馴れ、全仏が非協力というより組織上、これ以上全仏に依頼出来ない実情を知っていた私は、これを普通定例と心得ていた。今までの大会が総て地元負担であるにかかわらず、事務総局の局長以下の方々が屢く来県され慧心に指導されたことは、まことに深謝の他はない。役職にしても、全仏会長則大会会長の場合もあり、地元の大徳が就任する例も有ったが、大谷さんが会長になれば屢く来県して慰労も充分だから、借金が出来ても大宗派大財閥で心配には及ばない、との甘い考えも流れた。玆において、浅学も非才も経験の有無も考えず、欠損処理も覚悟の上で重責を汚した。

大会受諾も、「私は豊山派だ、豊山派も真言宗だ」との全仏組織伊東部長の熱心なしょうように市郡町仏教会に固り賛同を得たが、部長始め諸先生には無理難題を申し、気促勝手手の不満を申して済まないと思っ

ている。そして新潟大会の如く五拾万円助成金の上に、各宗派の名僧に染筆を依頼する事、一日一訓のカレンダーを作るから聖句と染筆を依頼する事、全仏の経費で四国四県の仏教各宗派のブロックを作ることの三つを要請した。第一の名僧墨蹟展は高松三越で盛況を極めたことは衆知の通りである。十万の諸大徳に敬意と感

謝を捧げる。第二の一日一訓は事務連絡の手違いもあり、亦今までに一月三十一日、三十一日入用の処十余点しか入手出来ず、早くから得難き聖訓染筆を頂いた大徳には申訳なく、玆て御詫び申上げ、全国参加の方に差上げんと意気込んでいた事務局は拍子抜けの感

がしている。第三の四国四県ブロック結成も、諸種の事情、高松市仏会長の長期入院を始め、三県の仏教会長も次ぎ次ぎと交代され万事は意の如く成らずとなつてしまつたが、大会の成果を見出すとすれば、1、県仏に加入寺院が一層融和親密強固になつたばかりでなく、この機会に加入した郡仏、寺院が多く全寺院加入の実現が進んでいること。2、四国四県ブロックも大会には間に合なかつたが、何とか実現したいと四県とも実動していること。3、自他各宗派との協調親睦が出来たこと。殊に私としては待望の真言会が開かれ百名予想が五十五名増加して、もし大会役員が参加出来、仏青結成の時間と別なれば二百名を越す程の盛会であつた。4、これを機会に、香川県檀信徒と香川県仏教青年会が結成せられ、育成発展しつつあること。5、剰余金も生じ、災害共済を結成するとか、仏教会創立募金に当るとか種々様々の浄業計画が浮び上つて

前に五十名も研究のため参加していることを知り、新潟大会の膨大な予算決算を見て懐い上る思いで受諾の無謀なことを知ったことでした。

檀信徒の協力と結成を痛感していた如、全仏より参議院候補推薦の依頼を受けた、香川県檀信徒会結成に際し、自民党公認候補大庭氏を檀信徒会長に推挙して大会の運命をかけた。衆議員六名中五名まで自民党で占めている保守王国で思はぬ栄冠を逸した、頼りの綱が切れたばかりか非難が一身に集中した。

幸に七月一日全仏は年中行事の第十六回講習会を大会の御待ち受け行事として、地元高松で開いてくれた事務局並に地元仏教会の奔走に依り、雨天にかかわらず満堂の聴講者を得て、講演内容も良く、大庭檀信徒会長も淡々として挨拶されて前景気としては申し分のない講習会であった。

市郡町の仏教会と事務局との会合も次第に繁くなり大会への気運は盛上って来た。普通寺に続いて中井竜瑞御前は八栗寺、屋島寺、さらに御自身と三つの記帳と同時に即金を頂いた。屢く訪問依頼していた大会社の募金も順調に進んだとは申せ、会社にしても寺院にしても不在勝ちで日月の消光の早いことに焦慮しはじめた。

県内の市郡町仏でも夫々困難な募金に熱中しはじめた。三木町では盛夏炎天のもと、会員四十余名、病弱を問わず全員八日間の鉢鉢募金に氣勢を掲げたが、病気の二和尚は大会を前後して御他界遊された。痛惜感激の涙留め得ず、普通寺市仏では、被生活保護世帯までも、兄の遺品を換金して後援してくれるなど、各郡会悉く実情即応の募金に計画を立て香川県内の市郡町の仏教会は大会まで全部分担金完納に成功した。

九月末には、県外の竜象大徳の援助を思い立ち、嵯峨大覚寺に、乃村門跡に拝眉、慈顔に涙を浮べ、この度の大役御苦勞ですと、依頼の言葉も出さない内に、

如何程後援すればよいかと、多額の現金を差出され、ただ三拜九拝するのみ、味岡執行長も本山としてさらに多額の寄付を頂き、御室仁和寺に、森門跡を拝顔せば「今頃何をしているか、岡山大会のときには、高峰大僧正は四回程も来訪依頼を受けた、しかし在寺にいてよかった。留守中に来て差支ないよう随員に領けて置いたと、封書用意の多額の浄財を渡され、立部執行長も大覚寺に同調しますと芳志を頂き、これ亦合掌するばかり、夜分東寺の木村長者の御自坊を訪れ来意を申せば、夜分だからと、前の二本山と同額の記帳頂き有難く退出した。翌日醍醐寺に参る、この本山は仏教会には批判的で、勿論全日仏にも京都府仏にも市仏にも加入していない、しかし、はるばる来られたのだからと、本山として多額の即金を拝受した。さらに諸寺歴訪して高野山にも思ったが急用のため果せなかつた。

事務局は日を追うて多忙を極め、複雑錯綜し、殊に宿泊申込者の通知なきキャンセルのため、多大の損失を招いたのみならず仏青の純真な心を傷けたのは遺憾であった。

本大会への道は平坦でなかつた。しかし山険しければ険しい程、高ければ高い程、頂上に達した欲びも爽さもそれに比例して大である。大会当日は前後曇天雨日にはさまれた二日間、絶好の晴天好日で、参加者が予定を超過して、数百名場外にあふれ、噂しき？悲願をあげたが、事情を説明すれば静かに別室で待機して頂いたことなど真に仏教徒ならではの光景で有難く思ったが、恒に苦過と多忙に悩まされた。しかしこれにも増して感謝感激すべきことなかつたことである。瑞喜と感激の連続ともいう可きであった。重ねて本大会に物心両面に亘りて御協力御指導頂いた多くの方々へに深謝し「みほとけのもとみんなて手をつなごう」をいよいよ推し進めて行きたいと念じている。

## インド流入東パキスタ ン難民救援金感謝録

(十二月三日現在)  
(敬称略)

- 一金壹千円也 山田龍城
- 一金貳万円也 真如苑
- 一金貳千貳百貳拾貳円也 市山淑子
- 一金壹万円也 粉河寺
- 一金壹万円也 淺草寺
- 一金壹千円也 向嶽寺
- 一金貳千円也 真言宗山階派宗務所
- 一金五千円也 佐藤密雄
- 一金壹千円也 光明学園相模原高校
- 一金五千円也 南多摩仏教会
- 一金貳千円也 藤沢商高校
- 一金貳千円也 根来寺
- 一金壹千円也 立石寺
- 一金貳千円也 結城令聞
- 一金貳千円也 醍醐寺
- 一金壹万円也 因泰寺
- 一金五万円也 善光寺
- 一金壹千円也 称名寺
- 一金壹万円也 妙心寺
- 一金壹万円也 東北福祉大学
- 一金參千円也 教王護国寺
- 一金壹万円也 木辺宣慈

昭和46年11月1日

# 世界高僧合同大法会に参列して

全日本仏教会国際局長

新聞 雄



韓国駐日曹溪宗弘法院李行願師より、十月始めに世界高僧合同大法会（菩薩戒授与と世界平和祈願奉修）を釜山梵魚寺を会場として開催するから、是非とも日本仏教教団より代表を推薦して出席して欲しいとの連絡をいただいた。

事務総長伊藤哲雄師と御相談し各宗管長視下あるいは宗務総長祝下等の御都合を問合せてみたものの十月というこのシーズンほどの御宗派も日程はギッシリ詰っていて御都合がつけられない、やむなくピンチヒッターとして国醫局長が出席せざるを得ない仕儀になって、柳了堅部長同道して本合同大法会出席のため準備にかかった。

韓国はさして遠い国ではない。未知未見の地でもない。想えば昭和十八年十一

月に老兵召集をうけ釜山に上陸したことがある。その折積み込まれた貨車の扉のスキ間からはるか山波を遠望し天空を突き射す巖石岬然たる山容に南画山景を思い、"画かきは嘘はかかないものだな"などと心に合づちをうったことなど記憶のなかにボンヤリと映って来た。

十月三十日は些々荒れ模様の中であつたが、九時二十分の羽田国内線出発所から大阪にむけて飛び立ち、大阪で乗り込む柳部長と共に午後十四時四十五分発の大韓航空に塔乗、いささか"雨虐風餐"の天候に行先を案じたが、離陸後五十分頃に前方は碧秋の陽光さんたる気象にかわつた。韓国釜山の空は明るい秋の日射しで輝いている。日本海も一またぎ、機は急角度で空港に車輪を重々しくつけた。

すでに迎えの人々が空港にあって、われわれ兩名は空港儀典係長田沢栄氏の先導にて貴賓室に招じられ花束贈呈、名刺交換等型の如く、やがて殆んどフリーパスで海外駐車場より指定車に乗る、まもなく先頭にバトカー二台がサイレンをならし釜山の北側道路にそって往く、百

米おきに小銃を肩にした警官が立ち、学校区らしい区切り方でその道路添いの学校生徒が韓国旗を振り笑顔で迎えてくれる。やがて九十九折の山路を会場たる梵魚寺に到着した。全山紅葉し、韓国特有のカーブをつけた屋根を極彩色の装飾柱で支えた寺院建築である。山門をくぐり

急な石段を登ると視界一杯に梵魚寺の大堂がせまってくるなかを案内の僧にみちびかれ"これより修道の僧以外進入のべからず"と注意札の立てられている築地土塀の門をくぐつた。左方に禅堂あり、その前庭は広くテントが三張り程つくれ背後に竹藪を通して秋陽照る女性的内容の山をみる一隅に、間敷七房程の建物がある。その一房に荷物を置き旅装をした。大阪より同乗した中華仏教親善協会設立者清澄法師とは別室に分れ、明日に控えた合同大法会の打合せなどで意外に時間をついやし、十一時近く寝についた。明朝は六時集合の由、オンドルの一小房、小卓子に一輪の花をさし、水差しには清水を満たしてコップが添えてある。その他細心の注意と言語的相違を越えて心あたたまる所遇には感謝の合掌で答えるのみである。

山寺森閑たる静寂の裡に更けて逝く、時折杖辺にかようは房前の砂地を往く寺僧の足音ならん、と思つたところ、昼間に見た釜山街道の警官と同じ服装をし小銃を肩にした警官二人が懐中電灯を手に案内して下さつたのには驚くと共に改めて感謝の念を深めたものである。

大会第一日の朝をむかえる。梵魚山の紅葉は朝暉をうけて全山燃ゆる如く、大空は碧澄一色、大気は実に美味しい、ここには自然の恩寵が豊かに満ちてある。

午前十時開会式の合図によつて式場に入る。大きな額には"世界高僧菩薩戒法会"としたため幾種かの白布の机を前にして階層的に装飾してあつた。檀下の前庭はすでに群参の大衆で満杯である。韓国外務官僚、海軍参謀長、艦隊司令官、市長公署関係代表等々名流人士婦人らしい姿も美しい。

次に開式順を掲げて式進行にかえる。  
1 打鐘 2 開会宣言 3 奏楽 4 三皈依礼 5 開会辞 6 経過報告 7 法語 8 激励辞 9 政府代表致辞 10 公館長致辞 11 歡迎辞 12 祝辞 13 答辞 14 奏楽 15 四弘誓願 16 開会宣言

午後一時より四時三十分頃まで菩薩戒を敬受せんとの深い信仰心をもつた大衆に説法が行なわれる。中国仏教会代表の白聖師と WIMALASRI 師がそれぞれ菩薩戒大法会の意義をたたえ、含蓄に富んだなかにも平易な説法で聴聞群参の大衆に呼びかける。説法は韓国語に通訳され再演されるが、前後約三時間半以上、少しのざわめきもなく静粛に進行し終了したときは満場大拍手の感激であつた。

大会第二日十一月一日は八時三十分より、THEPDEUAVORAVEDHI 師の講演あつて十時より日本仏教代表云々と紹介され檀下に挨拶して講演に入る。日本語を話すのは柳部長より他に誰もいないようなムードの会場、中国語や韓国語



李能嘉師に土産品を贈呈する  
新聞局長

そして青年たちは殆んど英語である。はたして自分の日本語法話が韓国の人に理解してもらえるか些々懸念したが、三國伝来の仏法を語る。必ずや共感あらんと呼びかけ、法華經二十番常不輕菩薩の心を平易に話しその難行苦行を語り終えたとき、突如、全く全然である満場の大拍手をうけた。韓国語の通訳が終ってまたまた大拍手の共感をいただいたには、実にうれしかった。日本語を知っている、日本語は理解できる。しかし表面にはそ

れを表現しないところに韓民族の複雑な気持ちが察せられるのである。かくて檀を降り小房にもどって午後の説法会は白聖師、韓国昔岩師、QUANGIEN師につづけられ翌十一月二日は午前中説法二座午後説法一座の時、二時より三時まで、大会主催の世界仏教連合本部がその祖国分断國家統一を熱祈し併而世平和の祈願祭が取り行なわれたので出席した。

仏教曹溪宗、釈古岩宗正、総務院長李青潭、仏国寺住持李梵行各師をはじめ多集した中国（自由中国）香港、マレーシア、シンガポール、タイ、カンボジア、セイロン、フィリピン、日本、韓国などの仏教代表が首副二導師をつとめ大衆唱念の裡に激昂且熱烈に奉行せられたことは時と処を思い合せて感慨無量なるものがあった。分断國家ではない祖国日本がすでに思想的価値観の対立で百家駭鳴雀鳴蛙声かまびすしく、体制反体制だと暴力闘争に移行している。三十八度線は國民の感情と意志の中に分断して布かれてはいないだろうかの思いがしきりであった。

十五時より戒帖交付式あり、三千名の大衆が静肅に且喜々として戒帖交付をうけ壇上のわれわれに深々と合掌して去って行ったのは夕闇の頃で、実に印象深かった。当日までの群衆数を釜山新報他各紙には三十万と報道していた。恐らく梵魚寺一帯は各種店舗の出張で所謂お祭りであったのだろう。しかし会場内のしかも修道者以外立入禁止の小房にあるわれ

われには終日群声を山彦に聴くのみで察するにとどまった。

十一月三日は釜山埠頭より駆逐艦に乗り、水陸斉放生仏事”を執行、四日は仏国寺、石窟庵に参拝、高麗古仏の石像を仰ぎ、仏教伝来の故事を追懐し、国柱会田中香甫先生が年来努力されている“仏教伝来謝恩事業”の目的が成就せられるように祈って急ぎ下山、それより物凄い山道をバトカー先導で砂塵を浴びつつ約四時間行程で海印寺到着、高麗大蔵經の法庫に登り之を拜す“韓国第一の法財たり”と。海印寺山房一宿し珍らしき精進料理に韓国寺院めぐりの最後の夜をたのしむ。翌日京城一ソウルに出た。ソウルの一日はまことに急がしく、李正子女史邸訪問、元本願寺跡、あるいは元護國寺跡を柳師と共に案内の金淳子女史につれられ訪ねたが、今は南北戦争のため悉く破壊してしまつた由。故老に聞いて“あの辺が”と判る程度でビル街に変わってしまった。約束の枚数を超過するのでこの辺で擱筆する。

今回の出向にあたり全日本仏教会、日蓮宗宗務院、国柱会田中香甫先生を始め各方面より御激励やら御協力を賜わりましたことを衷心より謝します。なお現地では韓国仏教会曹溪宗の梵魚寺、海印寺仏国寺の各聖および信徒の方々より大変温い親切な御待遇をいただいたことは柳部長と共に心から有難く感謝し紙上を借りてお礼をのべさしてもらいます。なお今回の訪韓を機に香港妙法精会の洗塵師

外四名、大韓仏教大古宗、真言宗、真覺宗、天台宗、仏入宗など十数名の方々が相隨いで訪日し、全日本仏教会より各宗各本山宗務院らへ参拝視察などについて御配慮方を煩わし度き肯をお願い致しおきました。すでに一行は関西方面の巡拝をし本稿印刷の時分にはその公式日程を終了していることと思いますが、日本各宗大本山の御協力、各宗宗務院の御厚配東京方面では天台宗孝道山、あるいは立正佼成会事務局の方々に紙上ではありませんが、謹んで御礼を申し上げます。

参加者による記念撮影



# 韓国仏教各宗代表団、香港仏教代表団

## 相ついで来日、各宗本山を訪問

さる十一月十二日洗塵法師を団長とする香港仏教僧伽連合会代表団四名が、さらに韓国仏教各宗代表団一行九名が十六日それぞれ来日した。全仏では両代表団の歓迎会を十九日午前十一時より菊水会館三階大ホールにおいて開催した。

まず柳国際部長の司会によりさる十五日急逝された韓国曹溪宗総務院長李青潭禪師の靈に対し挨拶をささげその冥福を祈ったあと、新聞国際局長の開会のあいさつ、稲田理事長の歓迎の辞、両代表団より全仏への記念品の贈呈式があつて、香港代表団を代表し洗塵会長が、韓国を代表し孫大鍊師がそれぞれ各国仏教徒の連帯と親善を強化し、仏教の国際発展に一段と努力すべきであるとあいさつしたのち会食にうつり、各界代表のスピーチが行なわれ、伊藤事務総長の閉会のあいさつをもって午後一時終了した。

なお当日出席した日本側関係者は、麻布照海、丸山日雄、田中香甫、塩入亮達、若山運法、椎谷健、寺田康順、山口智光、摩尾清之、総持寺代表の各師をはじめ稲田理事長以下局内職員が出席した。

さらに一行は滞日中に仏教事情視察のため各方面を正式に訪れ非常に日本仏教の威大さにいままさら感激したようである。訪問したところは短日数のため、主なところとし、総持寺、孝道教団、築地

本願寺、東京本願寺、全仏、浅草寺、本門寺、日蓮宗務院、立正佼成会、日光輪王寺、京都知恩院、関西事務総局、智積院、東本願寺、西本願寺、妙心寺、東大寺、法隆寺、四天王寺、高野山などとくに関西でも知恩院において歓迎会がもたれた。

緊急に各本山へ連絡したにも拘らず、国際親善の暖い気持で接待されたことについて全仏本部で非常に感謝している。韓国の李能嘉附長は二十日におくられて来日し、日韓仏教親善の具体化と、ソウルに仏教図書館設立について各方面の協力を要請し三十日帰国した。

### ハリントン博士来日

仏教東漸七十年記念会が、昭和三十八年に、ニューヨークを訪問した際に団員四十七名がユニテリアン教会コミュニティ・チャーチで仏教式による日曜勤行が行なわれ、九〇〇名の信者が参加する盛儀であったが、この主宰者であるDSハリントン博士が、この程来日されたので、来る十二月十二日、国際仏教交流センターが主催して歓迎の会をもつこととなった。当時の団員をはじめ関係者の参加が期待される。

なお全仏、孝道教団、日本自由宗教連盟が協賛している。

### 機構改正実施起草

#### 委員決まる

全仏の制度調査委員会の答申を得て、理事長がその具現化のため、各方面に対して接衝をつづけてきたが、十二月七日の評議員会までに、ある程度案を提示するため、新しく機構改正実施案起草委員を依頼し、十二月四日その第一回委員会を開催する。

現在の役員が退任しても新しく就任する理事会に対して答申するもので、左記の五氏に委嘱された。

- 伊藤 勝淳(日蓮) 郡司 博道(東仏)
- 藤田 説量(浄土) 別所 弘因(智山)
- 真溪 義實(専門委員)

### 昭和四十七年版 仏教徒手帳 申込み受付中

全仏総務局では、来年度の仏教徒必携「全仏手帳」を十一月下旬に発行することになりました。お申込みは全仏総務局(東京都台東区西浅草一ノ五ノ五十一)まで。

内容については次の通り  
体裁 縦十二、二cm×横八、二cm  
表紙 特製合成皮革(黒)  
内容 三篇依文、四弘誓願、六曜星副込、宗門聖日、仏教徒の人間像、宗派・都道府県仏・団体役員住所録、忌日・年忌早見表、各県宗教法人事務主管部局一覧、その他  
定価 二五〇円、送料別実費

### おことわり

役員人事交代その他の事情により、本号発行が遅れましたこと、お詫びいたします。なお、十二月号は休刊させていただきます。

## お寺に仏旗をかかげよう

大	たて 150C—よこ 247C	¥ 4,500円	小	70C—100C	¥ 1,400円
中	90C— 135C	¥ 2,500円	手旗	35C—100C	¥ 300円

もめん 別染製 堅牢 (全日本仏教制定意匠登録済)  
各地区仏教会でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教会

111 東京都台東区西浅草 1-5-5 電話 03・843・6341~3

昭和四十六年十一月一日発行  
十一月号第一二七号

発行人 伊藤 哲雄 編集人 白幡 憲佑

発行所 財団法人 全日本仏教会  
東京都台東区西浅草 1-5-5 (東京本願寺内)